

第 1 章

概 要

注) 単位未満は四捨五入しているため、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

第1 人口動態の概要

本県における平成22年の出生、死亡、自然増加数、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表1に示すとおりで、平成21年と比べ、出生、死亡、自然死産は増加し、その他は減少している。

表1 人口動態の年間発生件数（青森県）

	実 数			率（千対）			平均発生間隔	
	平成22年	平成21年	差引増減	平成22年	平成21年	差引増減	平成22年	平成21年
出 生	9,711	9,523	188	7.1	6.9	0.2	54'07"	55'12"
死 亡	16,030	15,387	643	11.7	11.2	0.5	32'47"	34'010"
乳児死亡	21	33	△ 12	2.2	3.5	△ 1.3	417°08'34"	265°27'16"
新生児死亡	12	17	△ 5	1.2	1.8	△ 0.6	730°00'00"	515°17'39"
自 然 増 加	△ 6,319	△ 5,864	△ 455	△ 4.6	△ 4.3	△ 0.3
死 産	283	290	△ 7	28.3	29.6	△ 1.3	30°57'15"	30°12'25"
自然死産	142	139	3	14.2	14.2	0.0	61°41'25"	63°01'18"
人工死産	141	151	△ 10	14.1	15.4	△ 1.3	62°07'40"	58°00'48"
周 産 期 死 亡	39	46	△ 7	4.0	4.8	△ 0.8	224°36'55"	190°26'05"
妊娠満22週以後の死産	30	32	△ 2	3.1	3.3	△ 0.2	292°00'00"	273°45'00"
早期新生児死亡	9	14	△ 5	0.9	1.5	△ 0.6	973°20'00"	625°42'51"
婚 姻	5,924	6,067	△ 143	4.3	4.4	△ 0.1	1°28'43"	1°26'38"
離 婚	2,679	2,768	△ 89	1.96	2.01	△ 0.05	3°16'12"	3°09'53"
		平成22年	平成21年					
合計特殊出生率（青森県）		1.38	1.26					

（全国）

	実 数			率（千対）			平均発生間隔	
	平成22年	平成21年	差引増減	平成22年	平成21年	差引増減	平成22年	平成21年
出 生	1,071,304	1,070,035	1,269	8.5	8.5	0.0	29"	29"
死 亡	1,197,012	1,141,865	55,147	9.5	9.1	0.4	26"	28"
乳児死亡	2,450	2,556	△ 106	2.3	2.4	△ 0.1	214' 32"	205' 38"
新生児死亡	1,167	1,254	△ 87	1.1	1.2	△ 0.1	450' 23"	419' 8"
自 然 増 加	△ 125,708	△ 71,830	△ 53,878	△ 1.0	△ 0.6	△ 0.4
死 産	26,560	27,005	△ 445	24.2	24.6	△ 0.4	19' 47"	19' 28"
自然死産	12,245	12,214	31	11.2	11.1	0.1	42' 55"	43' 2"
人工死産	14,315	14,791	△ 476	13.0	13.5	△ 0.5	36' 43"	35' 32"
周 産 期 死 亡	4,515	4,519	△ 4	4.2	4.2	0.0	116' 25"	116' 19"
妊娠満22週以後の死産	3,637	3,645	△ 8	3.4	3.4	0.0	144' 31"	144' 12"
早期新生児死亡	878	874	4	0.8	0.8	0.0	598' 38"	601' 22"
婚 姻	700,214	707,734	△ 7,520	5.5	5.6	△ 0.1	45"	45"
離 婚	251,378	253,353	△ 1,975	1.99	2.01	△ 0.0	2' 5"	2' 4"
		平成22年	平成21年					
合計特殊出生率（全国）		1.39	1.37					

注:1) 青森県の基礎人口は平成22年が1,369,629人、平成21年が1,375,000人である。

注:2) 全国の基礎人口は平成22年が126,381,728人、平成21年が125,820,000人である。

注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第2章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

1 出 生

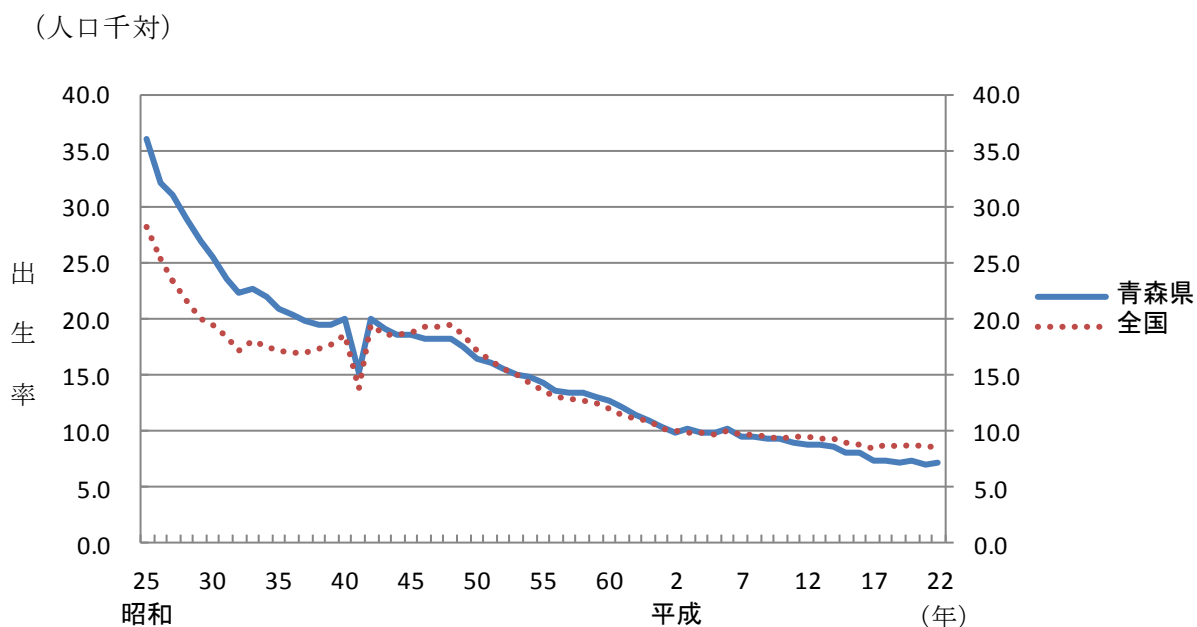
(1) 年 次 推 移

本県における出生率（人口千対）の推移を見ると、昭和 25 年の 36.0 をピークにその後は下降傾向を示し、昭和 37 年には 20.0 を、さらに平成 2 年には 10.0 を割った。平成 7 年以降は緩やかな減少が続いている。

平成 22 年の出生率は 7.1 で、前年の 6.9 を 0.2 ポイント上回っており、全国値の 8.5 より 1.4 ポイント下回っている。（図 1）

また、本県の合計特殊出生率は 1.38 で、前年の 1.26 を 0.12 ポイント上回っており、全国値の 1.39 より 0.01 ポイント下回っている。

図 1 出生率の年次推移



(2) 地域別出生

平成22年の市部の出生数は7,743人、郡部は1,968人であり、出生率（人口千対）は市部が7.3で郡部の6.2を1.1ポイント上回っている。

詳細は第2章第6表に記載されているので、参照されたい。

(3) 出生順位と母の年齢

平成22年に出生した子（死産を除く）が、その子の母の何番目に該当するかを表す出生順位別出生数の構成比は、第1子45.7%、第2子37.4%、第3子以上が17.0%となっており、第1子と第2子で全体の83.1%を占めている。（第2章第8表参照）

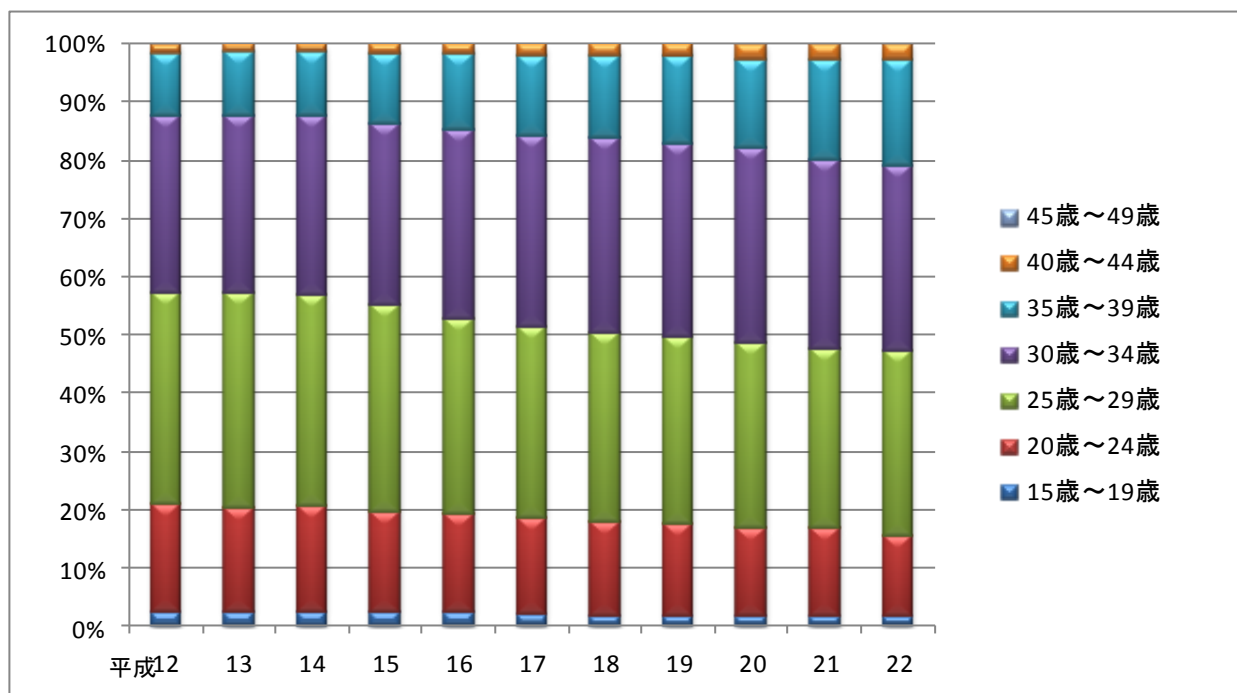
次に、平成22年における母の年齢階級別出生の構成比をみると、30歳から34歳が32.0%で最も高く、次いで25歳から29歳が31.8%となっている。（表2）

表2 母の年齢階級別出生の構成比

(単位：%)

年齢階級	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
15歳～19歳	2.3	2.2	2.4	2.3	2.2	1.8	1.7	1.7	1.6	1.6	1.5
20歳～24歳	18.3	17.8	18.1	17.2	16.8	16.4	16.1	15.8	14.9	15.0	13.8
25歳～29歳	36.3	37	36	35.3	33.8	33	32.4	31.9	31.8	30.9	31.8
30歳～34歳	30.5	30.5	31	31.1	32.4	32.8	33.5	33.3	33.6	32.5	32.0
35歳～39歳	10.9	11.2	11	12.1	13	13.7	14	15	15.2	17.2	17.9
40歳～44歳	1.6	1.4	1.4	1.8	1.9	2.2	2.2	2.3	2.7	2.8	2.9
45歳～49歳	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.0	0.1

図2 母の年齢階級別出生の構成比



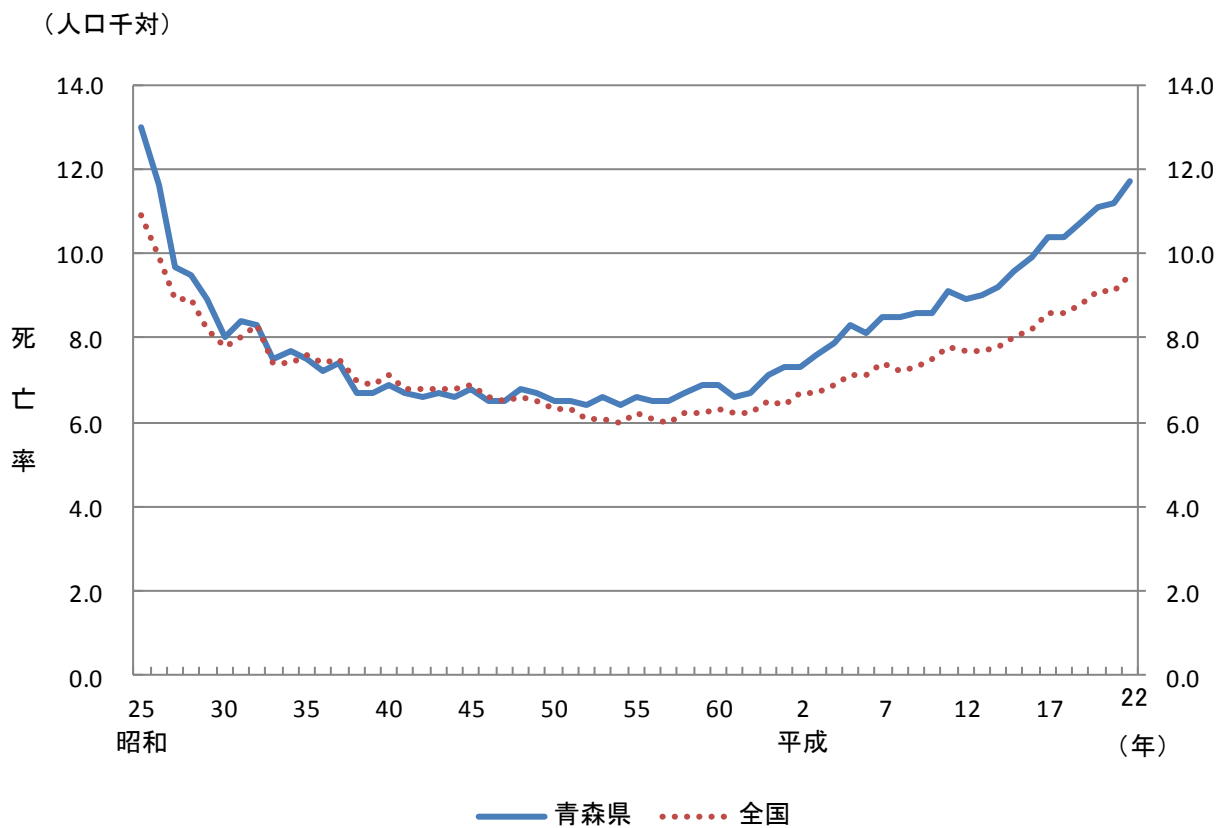
2 死 亡

(1) 年 次 推 移

本県における死亡率（人口千対）の推移をみると、昭和 25 年以降著しく低下し、昭和 33 年には 8.0 を割るまでに改善された。しかし、平成 5 年には再び 8.0 を上回り、その後は人口の高齢化を反映して上昇傾向が続いている。

平成 22 年の死亡率は 11.7 で、前年の 11.2 より 0.5 ポイント上回っており、全国値の 9.5 より 1.7 ポイント上回っている。（図 3）

図 3 死亡率の年次推移



(2) 地 域 別 死 亡

平成 22 年の市部の死亡数は、11,585 人、郡部が 4,445 人で、死亡率（人口千対）は、市部が 11.0 で郡部の 13.9 を 2.9 ポイント下回っている。

詳細は第 2 章第 13 表に記載されているので参照されたい。

(3) 主要死因

本県における主要死因の推移を年次別にみると、昭和 25 年に高かった「結核」が激減し、変わって昭和 27 年に「脳血管疾患」が 1 位となった。その後、「悪性新生物」と「心疾患」が増加し、昭和 57 年には「悪性新生物」が「脳血管疾患」を上回って 1 位になり、さらに昭和 61 年には「心疾患」が「脳血管疾患」を上回り、2 位になった。(図 4)

平成 22 年における本県の 10 大死因をみると、1 位が「悪性新生物 (がん)」、2 位が「心疾患」、3 位が「脳血管疾患」で、1 位から 3 位までで全死亡者の 58.0% を占めている。(表 3、図 5)

なお、男女別にみた主要死因の順位は、男女共に 1 位悪性新生物、2 位心疾患となっており、3 位は男性が肺炎、女性が脳血管疾患となっている。

(表 3)

表 3 死因順位別死亡数、率

(前年比較・全国比較)

死 因	青 森 県						全 国			
	平成 22 年			平成 21 年			差引増減 (A)-(B)	平成 22 年		
	順位	死亡者数 (A)	死亡率	順位	死亡者数 (B)	死亡率		順位	死亡者数	死亡率
総死亡者数		16,030	1170.4		15,387	1119.1	643		1,197,012	947.1
悪性新生物	1	4,784	349.3	1	4,516	328.4	268	1	353,499	279.7
心疾患	2	2,634	192.3	2	2,474	179.9	160	2	189,360	149.8
脳血管疾患	3	1,883	137.5	3	1,838	133.7	45	3	123,461	97.7
肺炎	4	1,631	119.1	4	1,639	119.2	△8	4	118,888	94.1
老衰	5	608	44.4	5	511	37.2	97	5	45,342	35.9
不慮の事故	6	552	40.3	7	471	34.3	81	6	40,732	32.2
自殺	7	403	29.4	6	476	34.6	△73	7	29,554	23.4
腎不全	8	375	27.4	8	391	28.4	△16	8	23,725	18.8
糖尿病	9	227	16.6	10	211	15.3	16	12	14,422	11.4
肝疾患	10	207	15.1	9	222	16.1	△15	10	16,216	12.8
その他		2,726	199.0		2,638	191.9			241,813	191.3

注：)死亡者数は人、死亡率は人口 10 万対である。

(青森県男女別)

(平成 22 年)

死 因	男			女		
	順位	死亡者数	死亡率	順位	死亡者数	死亡率
総死亡者数		8,552	1326.2		7,478	1031.7
悪性新生物	1	2,813	436.2	1	1,971	271.9
心疾患	2	1,311	203.3	2	1,323	182.5
脳血管疾患	4	917	142.2	3	966	133.3
肺炎	3	925	143.3	4	706	97.4
老衰	8	136	21.1	5	472	65.1
不慮の事故	5	339	52.6	6	213	29.4
自殺	6	297	46.1	9	106	14.6
腎不全	7	185	28.7	7	190	26.2
糖尿病	11	120	18.6	8	107	14.8
肝疾患	9	135	20.9	11	72	9.9
その他		1,374	213.1		1,352	186.5

注：)死亡者数は人、死亡率は人口 10 万対である。

図4 主要死因別の死亡率の推移

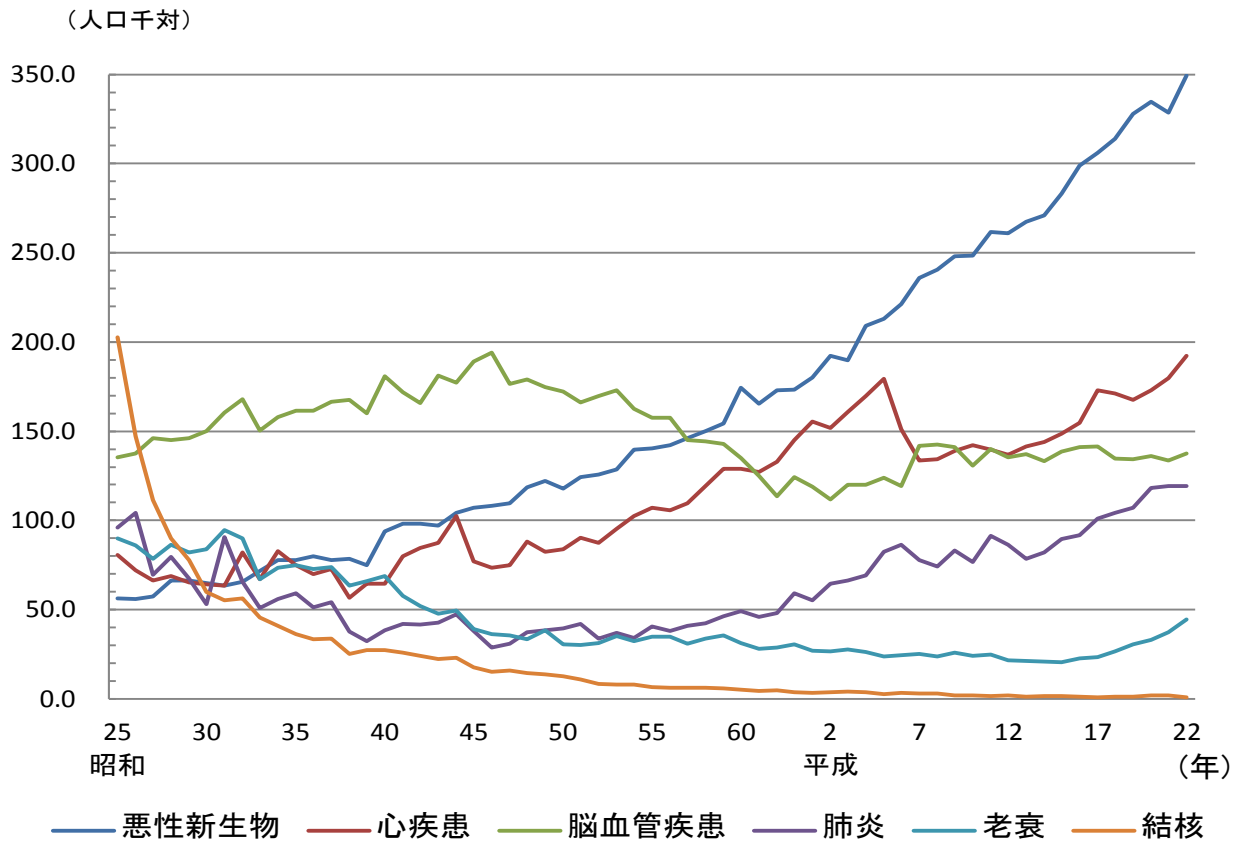
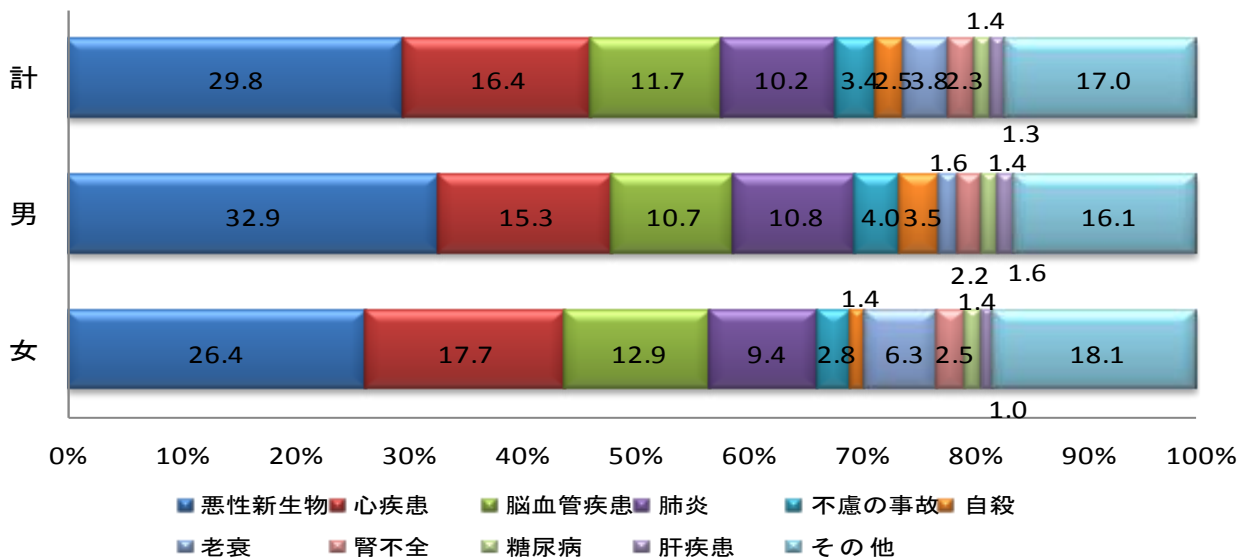


図5 10大死因の構成比



	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	不慮の事故	自殺	腎不全	糖尿病	肝疾患	その他
計	29.8	16.4	11.7	10.2	3.8	3.4	2.5	2.3	1.4	1.3	17.0
男	32.9	15.3	10.7	10.8	1.6	4.0	3.5	2.2	1.4	1.6	16.1
女	26.4	17.7	12.9	9.4	6.3	2.8	1.4	2.5	1.4	1.0	18.1

(4) 悪性新生物（がん）

本県における悪性新生物による死亡率（人口千対）は、年々増加傾向にあり平成 22 年は前年を 20.9 ポイント上回り、349.3 であった。また、全国値の 279.7 を 69.6 ポイント上回っている。

部位別では、「気管、気管支及び肺」、「胃」、「結腸」での死亡構成比が高く、これらで全体の 44.7%を占めている。（表 4）

表 4 悪性新生物（がん）部位別死亡率、構成比率（各年次）

		平成 2年	7年	12年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
死 亡 率 1)	悪性新生物	192.4	236.0	261.0	298.8	305.9	313.9	327.7	334.7	328.4	349.3
	食道	7.0	7.2	10.2	9.2	10.4	10.7	11.0	10.4	10.9	10.7
	胃	41.3	44.2	47.3	49.2	46.6	46.9	52.2	48.3	48.5	51.5
	結腸	-	9.0	22.2	29.8	28.3	28.8	30.2	32.2	30.1	35.8
	直腸S状結腸移行部 及び直腸 ²⁾	7.8	11.2	12.6	15.7	13.8	16.5	15.8	18.7	16.8	14.8
	肝及び肝内胆管 ³⁾	17.2	22.2	21.3	26.4	26.4	25.9	26.4	27.2	24.1	26.6
	胆のう及びその他の胆道	-	15.3	14.5	18.0	19.0	18.9	17.7	20.2	20.1	20.7
	膵	15.3	17.0	20.6	22.4	23.2	23.3	28.1	28.1	25.7	29.8
	気管、気管支及び肺	32.4	40.9	47.7	52.6	55.8	56.4	62.2	60.6	62.7	69.0
	乳房	4.5	7.0	7.7	9.5	9.1	11.5	10.9	11.0	10.3	11.3
	子宮 ⁴⁾	8.4	6.6	7.3	8.4	8.2	4.8	8.5	5.3	9.7	9.0
	白血病	4.5	4.7	3.9	4.6	4.2	5.7	5.6	5.7	6.5	5.2
	(再掲)大腸 ⁵⁾	-	30.2	34.8	45.4	42.2	45.2	46.0	50.9	46.9	50.6
構 成 比	悪性新生物	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	食道	3.6	3.1	3.9	3.1	3.4	3.1	3.4	3.1	3.3	3.1
	胃	21.5	18.7	18.1	16.4	15.2	16.4	15.9	14.6	14.8	14.7
	結腸	-	8.1	8.5	10.0	9.3	10.0	9.2	9.7	9.2	10.2
	直腸S状結腸移行部 及び直腸 ²⁾	4.0	4.7	4.8	5.2	4.5	5.2	4.8	5.7	5.1	4.2
	肝及び肝内胆管 ³⁾	8.9	9.4	8.1	8.8	8.6	8.8	8.1	8.2	7.3	7.6
	胆のう及びその他の胆道	-	6.5	5.5	6.0	6.2	6.0	5.4	6.1	6.1	5.9
	膵	8.0	7.2	7.9	7.5	7.6	7.5	8.6	8.5	7.8	8.5
	気管、気管支及び肺	16.8	17.3	18.3	17.6	18.2	17.6	19.0	18.3	19.1	19.8
	乳房	2.4	3.0	2.9	3.2	3.0	3.2	3.3	3.3	3.1	3.2
	子宮 ⁴⁾	2.3	1.5	1.5	1.5	1.4	1.5	1.4	1.6	1.6	1.4
	白血病	2.4	2.0	1.5	1.5	1.4	1.5	1.7	1.7	2.0	1.5
	(再掲)大腸 ⁵⁾	-	12.8	13.3	15.2	13.8	15.2	14.0	15.4	14.3	14.5

注：1) 死亡率は人口 10 万対、構成比は%である。なお、死亡率のうち、子宮は女性人口 10 万対である。

注：2) 平成 6 年までは、「直腸、直腸S状結腸移行部及び肛門」。

注：3) 平成 6 年までは「肝」。

注：4) 平成 6 年までは胎盤を含む。

注：5) 結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を含む。

表5 悪性新生物(がん) 部位別、死亡数、構成比、死亡率

(平成22年)

	死亡数			構成比			死亡率		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
口唇, 口腔及び咽頭	78	60	18	1.6	2.1	0.9	5.7	9.3	2.5
食道	146	128	18	3.1	4.6	0.9	10.7	19.8	2.5
胃	705	449	256	14.7	16.0	13.0	51.5	69.6	35.3
結腸	490	239	251	10.2	8.5	12.7	35.8	37.1	34.6
直腸S状結腸移行部及び直腸	203	134	69	4.2	4.8	3.5	14.8	20.8	9.5
肝及び肝内胆管	365	240	125	7.6	8.5	6.3	26.6	37.2	17.2
胆のう及びその他の胆道	283	130	153	5.9	4.6	7.8	20.7	20.2	21.1
膵	408	203	205	8.5	7.2	10.4	29.8	31.5	28.3
喉頭	24	22	2	0.5	0.8	0.1	1.8	3.4	0.3
気管, 気管支及び肺	945	679	266	19.8	24.1	13.5	69.0	105.3	36.7
皮膚	31	18	13	0.6	0.6	0.7	2.3	2.8	1.8
乳房	155	1	154	3.2	0.0	7.8	11.3	0.2	21.2
子宮 ¹⁾	65	・	65	3.3	・	3.3	9.0	・	9.0
卵巣 ¹⁾	74	・	74	3.8	・	3.8	10.2	・	10.2
前立腺 ¹⁾	149	149	・	5.3	5.3	・	23.1	23.1	・
膀胱	83	53	30	1.7	1.9	1.5	6.1	8.2	4.1
中枢神経系	18	12	6	0.4	0.4	0.3	1.3	1.9	0.8
悪性リンパ腫	111	64	47	2.3	2.3	2.4	8.1	9.9	6.5
白血病	71	39	32	1.5	1.4	1.6	5.2	6.0	4.4
その他のリンパ組織, 造血組織及び関連組織	42	24	18	0.9	0.9	0.9	3.1	3.7	2.5
その他	338	169	169	7.1	6.0	8.6	24.7	26.2	23.3
(再掲) 大腸 ²⁾	693	373	320	14.5	13.3	16.2	50.6	57.8	44.2

注：1) 死亡数は人、構成比は%、死亡率は人口10万対(男女別では男女別人口10万対)である。

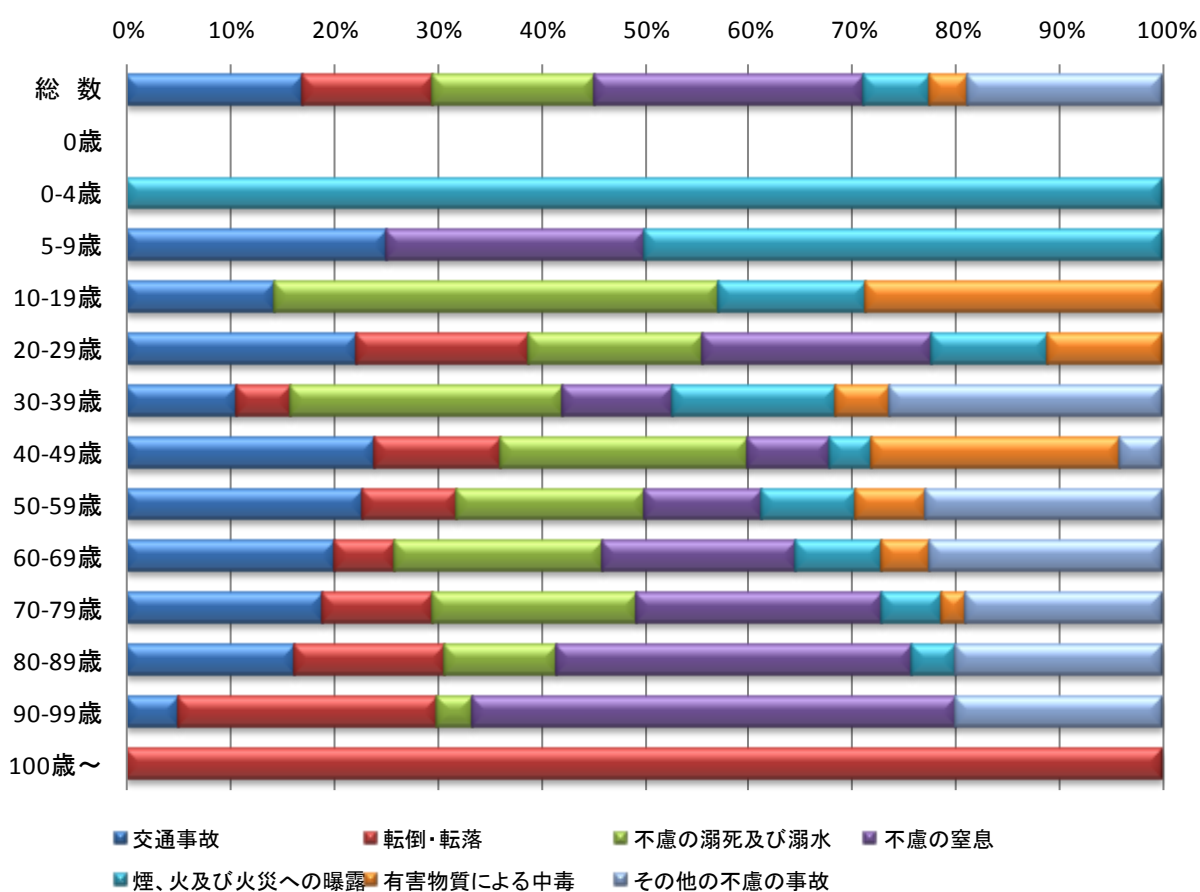
注：2) 結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を含む。

(5) 不慮の事故

本県の不慮の事故による死亡率(人口10万対)は40.3で、前年の34.3を6.0ポイント上回っており、全国値の32.2を8.1ポイント上回っている。

これを原因別構成比で見ると、「不慮の窒息」が26.1%と最も多く、次いで「交通事故」、「不慮の溺死及び溺水」、「転倒・転落」の順となっている。(図6)

図6 不慮の事故による死亡数の年齢階級別構成比



死亡数(人)	総数	0歳	0~4歳	5~9歳	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90~99歳	100歳~
不慮の事故	552	0	1	4	7	18	19	25	44	85	122	166	60	1
交通事故	94	0	0	1	1	4	2	6	10	17	23	27	3	0
転倒・転落	69	0	0	0	0	3	1	3	4	5	13	24	15	1
不慮の溺死及び出来水	86	0	0	0	3	3	5	6	8	17	24	18	2	0
不慮の窒息	144	0	0	1	0	4	2	2	5	16	29	57	28	0
煙、火及び火災への曝露	35	0	1	2	1	2	3	1	4	7	7	7	0	0
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	21	0	0	0	2	2	1	6	3	4	3	0	0	0
その他の不慮の事故	103	0	0	0	0	0	5	1	10	19	23	33	12	0
構成比(%)	総数	0歳	0~4歳	5~9歳	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90~99歳	100歳~
交通事故	17	0	0	25	14.3	22.2	10.5	24	22.7	20	18.9	16.3	5	0
転倒・転落	12.5	0	0	0	0	16.7	5.3	12	9.1	5.9	10.7	14.5	25	100
不慮の溺死及び出来水	15.6	0	0	0	42.9	16.7	26.3	24	18.2	20	19.7	10.8	3.3	0
不慮の窒息	26.1	0	0	25	0	22.2	10.5	8	11.4	18.8	23.8	34.3	46.7	0
煙、火及び火災への曝露	6.3	0	100	50	14.3	11.1	15.8	4	9.1	8.2	5.7	4.2	0	0
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	3.8	0	0	0	28.6	11.1	5.3	24	6.8	4.7	2.5	0	0	0
その他の不慮の事故	18.7	0	0	0	0	0	26.3	4	22.7	22.4	18.9	19.9	20	0

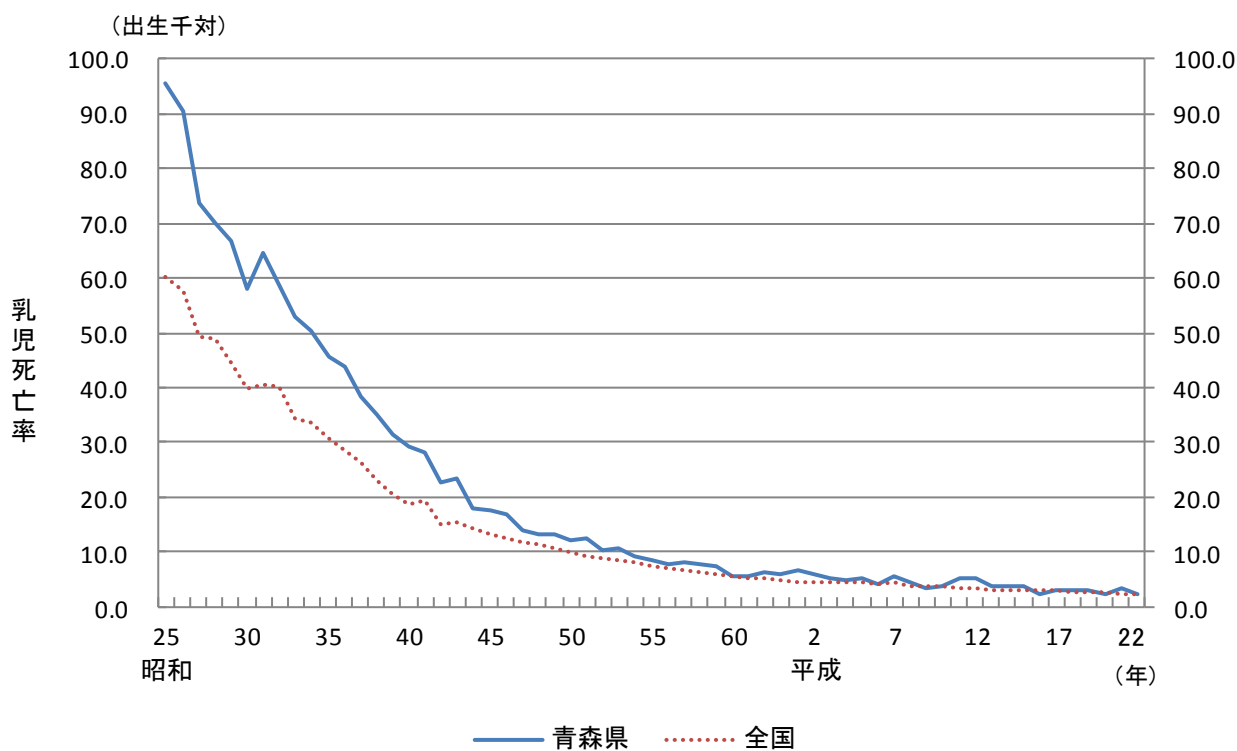
3 乳 児 死 亡

(1) 年 次 推 移

本県における乳児死亡率（出生千対）は、昭和 25 年は 96.5 であったが、その後大幅に改善され、昭和 54 年には 10.0 を割るまでになり、以降も低下を続けたが、平成 4 年以降は横ばいの状態が続いている。

平成 22 年の乳児死亡率は 2.2 で、前年の 3.5 を 1.3 ポイント下回っている。また、全国値の 2.3 より 0.1 ポイント下回っている。（図 8）

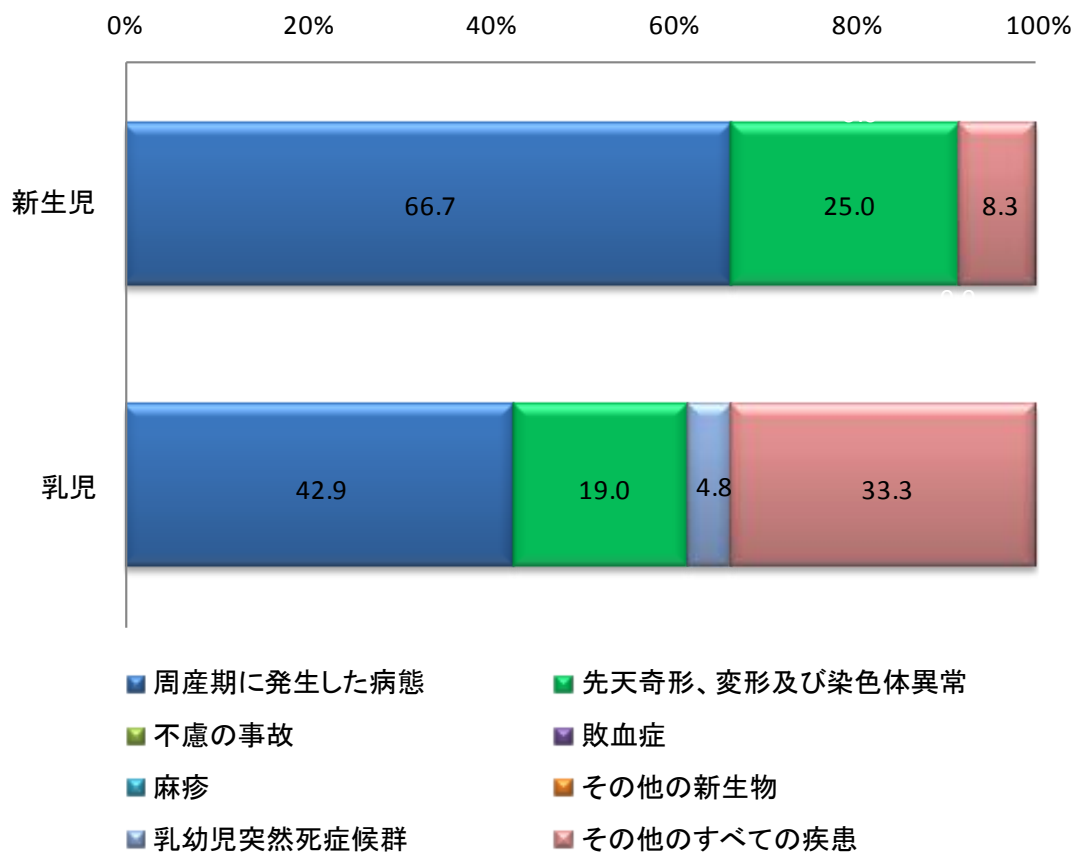
図 7 乳児死亡率の年次推移



(2) 乳児死亡の主要原因

平成 22 年の乳児死亡を主要死因別構成比で見ると、「周産期に発生した病態」が最も高く、次いで「先天奇形、変形及び染色体異常」「乳幼児突然死症候群」となっている。(図 8)

図 8 乳児及び新生児死亡率の主要死因構成比



4 新生児死亡

(1) 年次推移

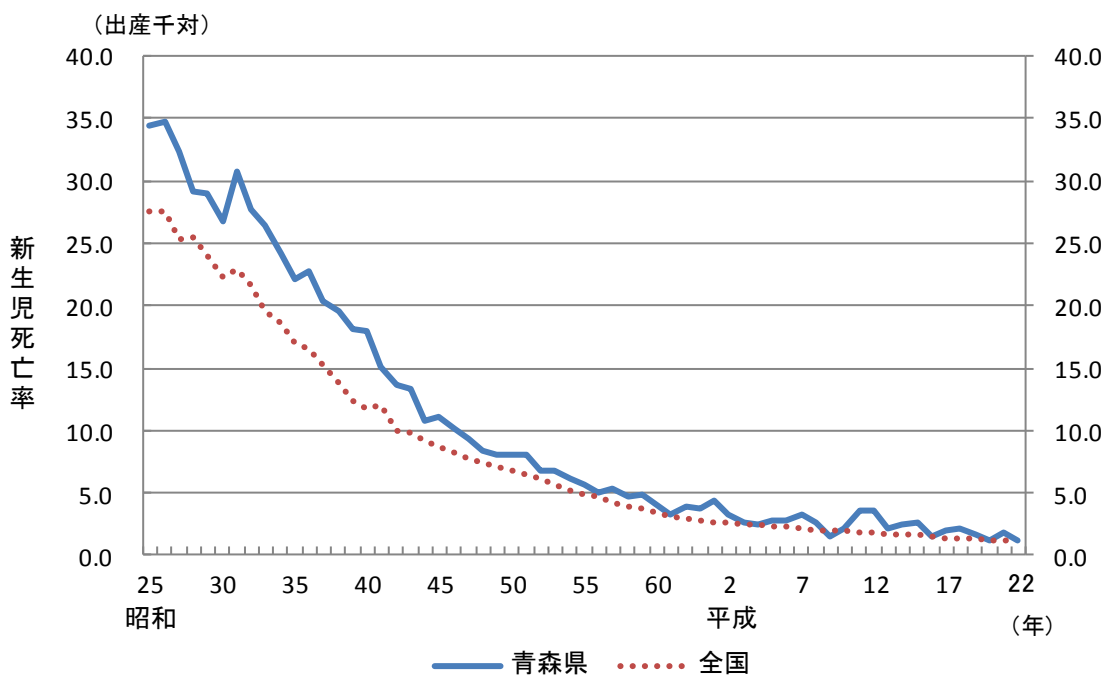
新生児死亡率（出生千対）は、昭和 26 年以降、乳児死亡率と同様に、増加と減少を繰り返しながら緩やかに減少している。

平成 22 年の新生児死亡率は 1.2 で、前年の 1.8 を 0.6 ポイント下回っており、全国値の 1.1 を、0.1 ポイント上回っている。（図 9）

(2) 新生児死亡の主要死因

平成 22 年の乳児死亡を主要死因別構成比で見ると、「周産期に発生した病態」が最も高く、次いで「先天奇形、変形及び染色体異常」、となっており、全体の 91.7% を占めている。（図 8）

図 10 新生児死亡率の年次推移



5 死 産

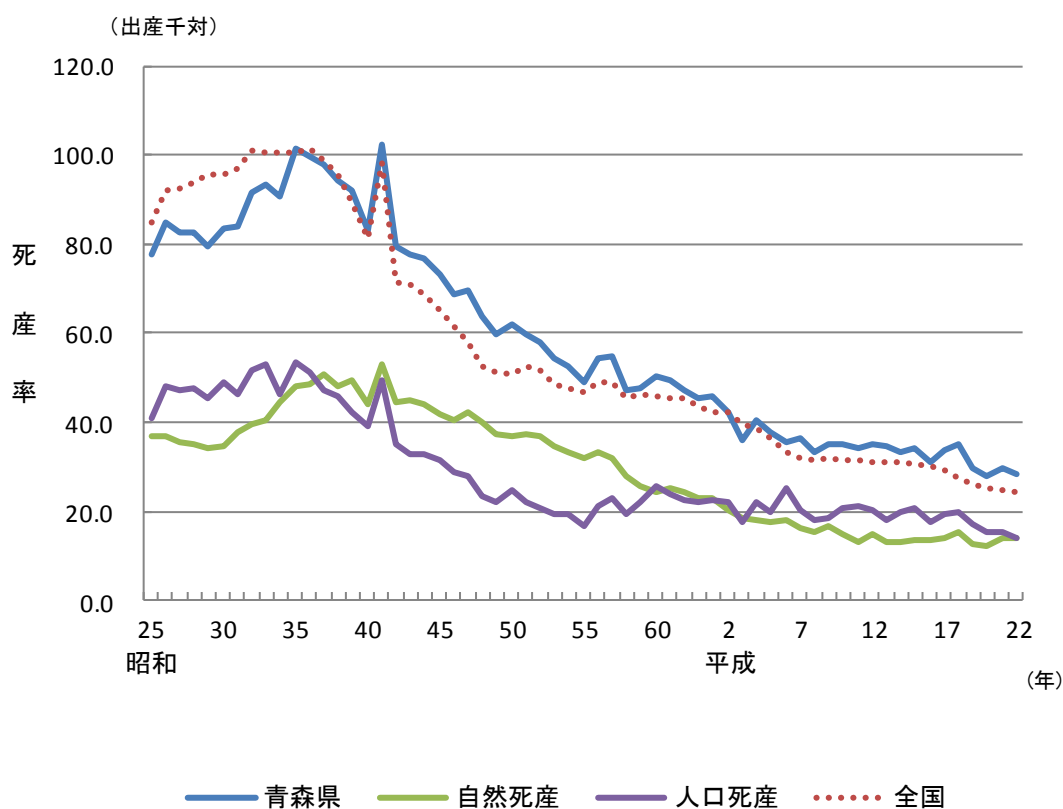
本県における死産率（出産千対：（出生＋死産）千対）は、昭和 25 年以降上昇傾向にあったが、その後、昭和 35 年をピークに下降した。一方、昭和 41 年（ひのえうま年）には急激に上昇し 102.3 となった。

なお、死産率のうち、自然死産率は昭和 41 年をピークに緩やかな減少傾向を示している。人工死産率は昭和 55 年に 20.0 を大きく下回ったものの、その後は再び 20.0 前後で推移し、横ばいの状況となっていたが、平成 19 年からは減少傾向が続いている。（図 10）

平成 22 年の死産率は 28.3 で、前年の 29.6 より 1.3 ポイント下回っており、全国値の 24.2 より 4.1 ポイント上回っている。（図 10）

また、自然死産率は 14.2 で、前年の 14.2 と同率となっており、人工死産率は 14.1 で、前年の 15.4 を 1.3 ポイント下回っている。

図 10 死産率の年次推移

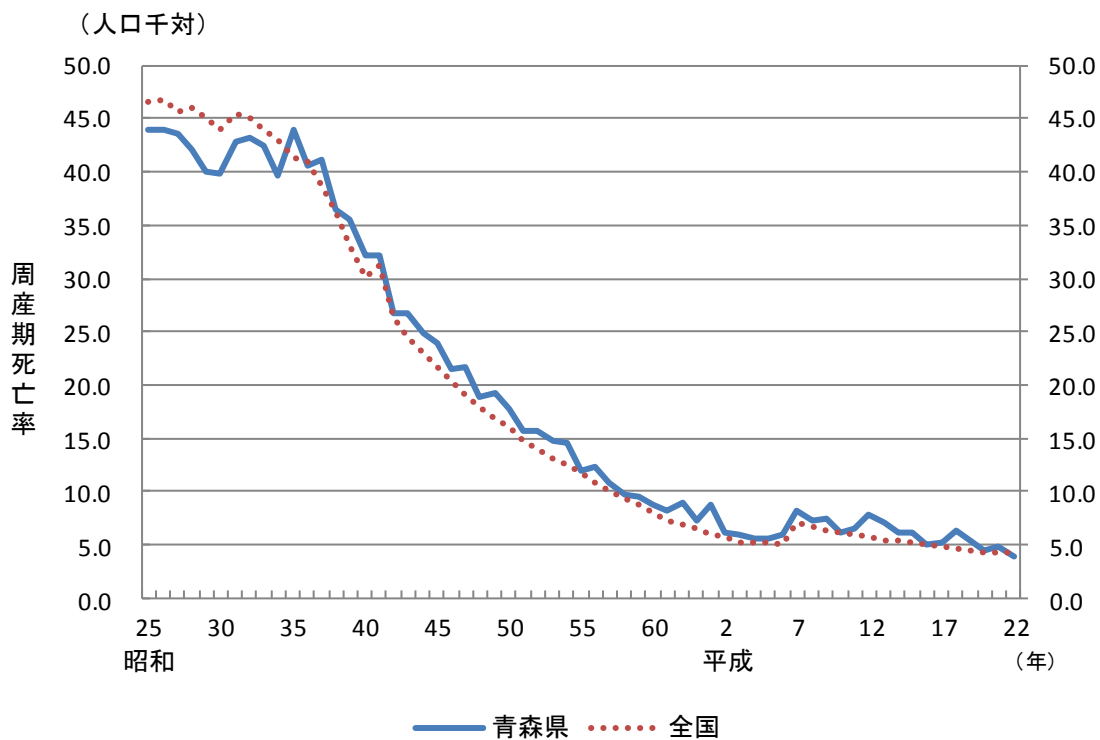


6 周産期死亡

本県における周産期死亡率は、昭和 37 年まで 40.0 ポイント台で推移してきたが、昭和 38 年以降大幅に低下してきた。

平成 22 年の周産期死亡率は 4.0 で、前年の 4.8 を 0.8 ポイント下回っており、全国値の 4.2 を 0.2 ポイント下回っている。(図 11)

図 11 周産期死亡率の年次推移



注：1) 周産期死亡は、「妊娠満 22 週以後の死産と早期新生児を加えたもの」から「妊娠満 22 週以後の死産と早期新生児死亡を加えたもの」に改正された。

注：2) 周産期死亡率は、平成 6 年までは出生千対。平成 7 年以降は、出産千対（出生＋妊娠満 22 週以後の死産の千対）。

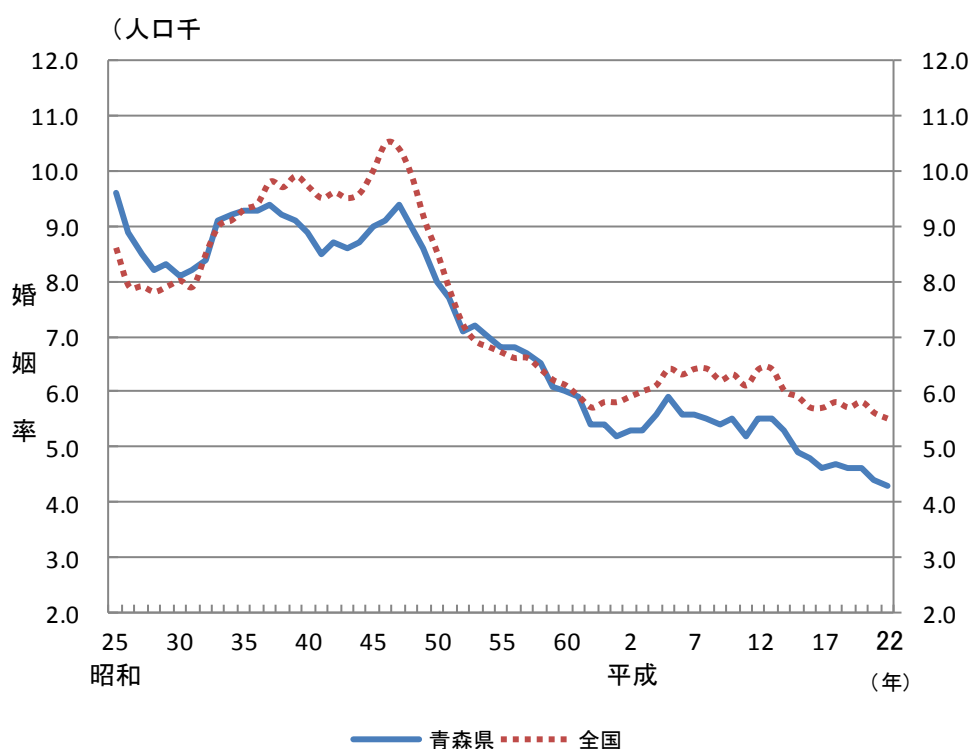
7 婚 姻

(1) 年 次 推 移

本県における婚姻率（人口千対）は、昭和 25 年以降 8.0～10.0 前後で推移していたが、昭和 47 年から下降傾向を示しており、昭和 61 年には 6.0 を割り込んだ。

平成 22 年の婚姻率は 4.3 で、前年の 4.4 を 0.1 ポイント下回っており、全国値の 5.5 を 1.2 ポイント下回っている。（図 12）

図 12 婚姻率の年次推移

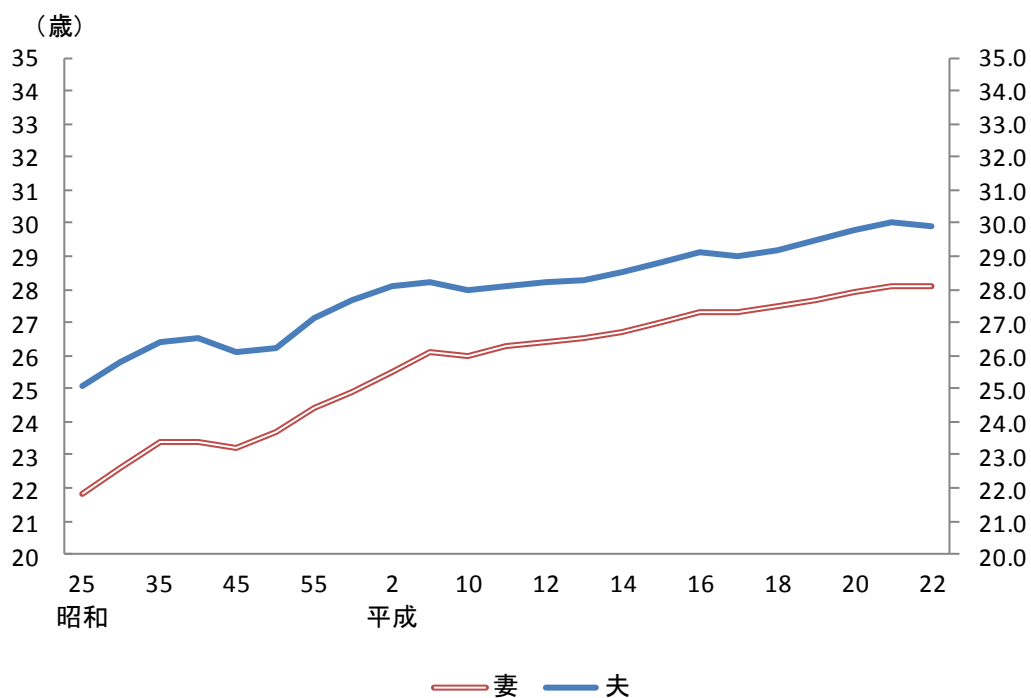


(2) 平均初婚年齢

本県における平均初婚年齢について、昭和 25 年以降の年次推移をみると、夫、妻ともに年齢が高くなっている。(図 13)

平成 22 年の平均初婚年齢(平成 22 年に結婚生活に入ったもので、結婚式を挙げた時、または同居を始めた時の年齢)は、夫が 29.9 歳、妻が 28.1 歳であり、全国値の夫 30.5 歳、妻 28.8 歳より、夫が 0.6 歳、妻が 0.7 歳下回っている。

図 13 平均初婚年齢の年次推移



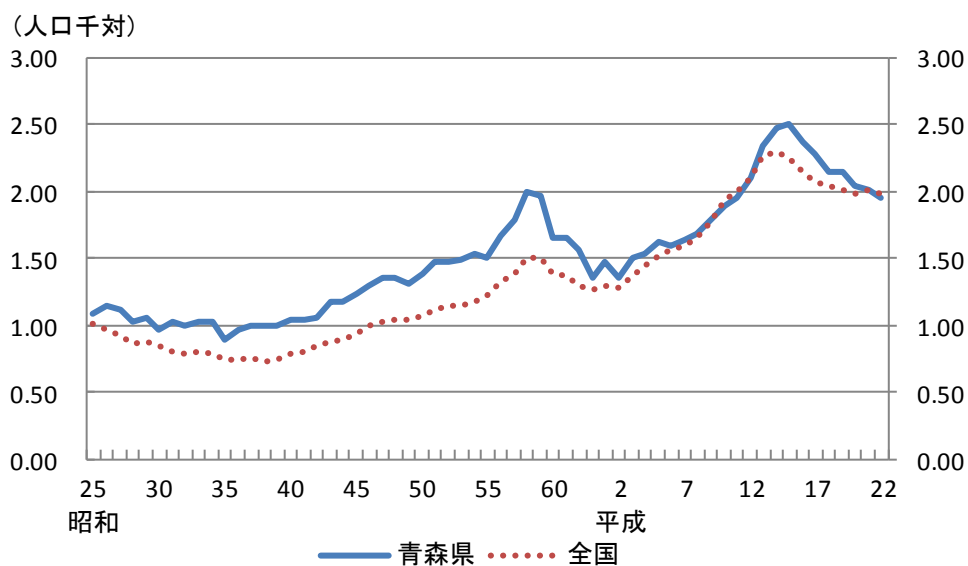
8 離 婚

(1) 年 次 推 移

本県における離婚率（人口千対）は、昭和 25 年以降横ばい状況が続いたが、昭和 40 年代から上昇し、昭和 58 年には 2.0 となった。それ以降は下降傾向を示していたが、平成 3 年から再び上昇したものの平成 16 年から減少傾向を示している。

平成 22 年の離婚率は 1.96 で、前年の 2.01 より 0.05 ポイント下回っており、全国値の 1.99 を 0.03 ポイント下回っている。（図 14）

図 14 離婚率の年次推移



(2) 離婚した夫婦の同居期間

平成 22 年の離婚件数 2,679 件のうち、結婚 5 年未満で離婚した件数の構成比は 29.0%で最も多く、次いで 5～10 年の 22.2%、20 年以上の 20.1%の順となっている。（表 6）

表 6 離婚件数、同居期間別構成比

(単位：%)

同居期間	平成 2 年	7 年	12 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年	22 年
0～5 年	32.5	36.4	36.7	34.4	34.1	32.1	34.6	33.1	31.5	32.3	29.0
1 年未満	7.6	7.1	6.5	5.8	5.5	5.5	5.8	6.0	6.1	6.1	4.9
1～2 年	7.2	9.3	8.4	7.6	7.5	7.5	8.1	6.9	7.5	7.5	6.4
2～3 年	6.5	8.2	7.7	7.6	7.6	7.6	6.7	7.4	6.9	6.9	6.8
3～4 年	5.7	6.1	7.9	6.6	7.4	7.4	7.0	6.5	6.7	6.7	6.0
4～5 年	5.5	5.8	6.2	6.8	6.1	6.1	6.9	6.4	5.1	5.1	5.0
5～10 年	20.7	19.0	22.4	21.8	22.5	23.0	23.4	23.6	23.1	20.7	22.2
10～15 年	16.1	13.2	11.0	13.2	12.9	13.9	12.6	14.0	14.0	14.5	13.7
15～20 年	13.2	11.0	8.5	10.0	9.7	9.9	9.0	9.8	9.6	10.2	10.2
20 年以上	17.3	18.9	18.1	19.6	20.0	19.2	18.5	17.4	17.9	19.5	20.1
不詳	0.2	1.5	3.4	1.0	2.9	2.0	1.9	2.1	3.8	2.8	4.7

第2 医療統計の概要

1 医療施設

(1) 病院数

平成22年10月1日現在の病院数は104施設で、前年の104施設と同様である。人口10万対では7.6(全国6.8)で、前年の7.5を0.1ポイント上回っている。

(2) 一般診療所数

平成22年10月1日現在の一般診療所数は932施設で、前年の936施設より4施設減少している。人口10万対では67.9(全国78.0)で、前年と同率であった。

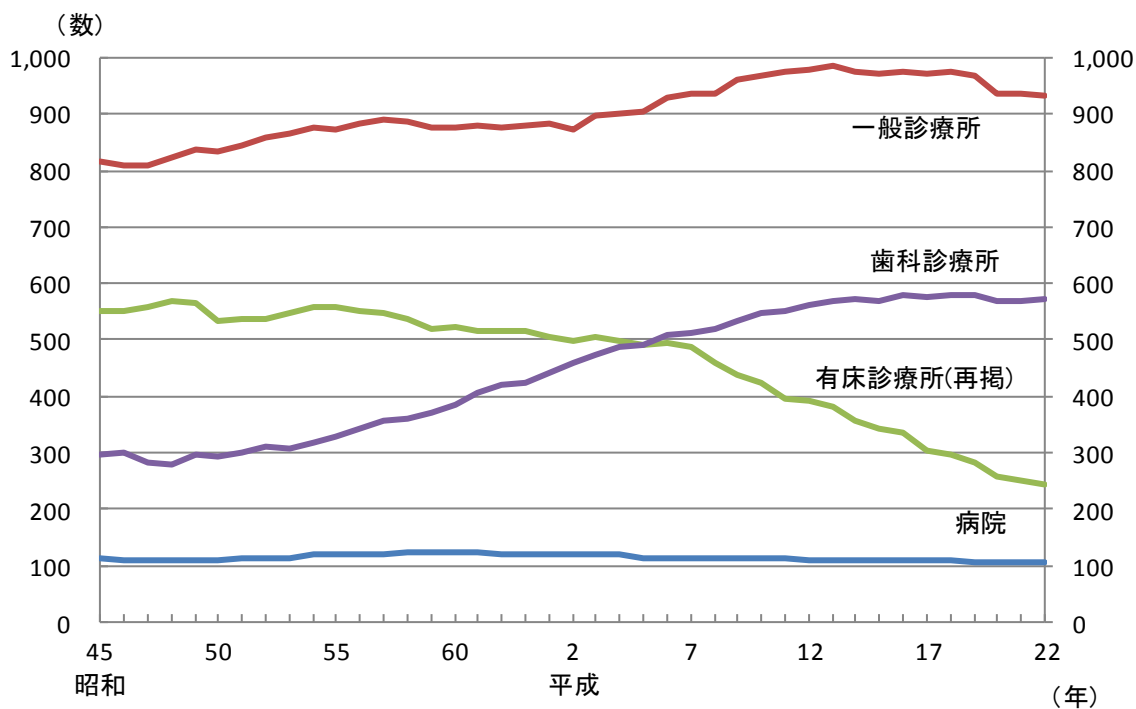
そのうち、有床診療所は245施設で、一般診療所全体の26.3%(全国10.6%)を占め、前年より5施設減少している。

また、無床診療所は687施設で、一般診療所全体の73.7%(全国89.4%)を占め、前年より1施設増加している。

(3) 歯科診療所数

平成22年10月1日現在の歯科診療所数は572施設で、前年の570施設より2施設増加している。人口10万対では41.7(全国53.4)で、前年の41.3より0.4ポイント増加している。

図1 医療施設数の年次推移



2 医師・歯科医師・薬剤師

(1) 医師

平成 22 年 12 月 31 日現在の医師数は 2,636 人であり、前回調査の平成 20 年に比べ、73 人増加している。

また、人口 10 万対では 191.9 であり、平成 20 年に比べ、7.8 ポイント増加している。これを全国値の 230.4 と比較すると、38.5 ポイント少ない。

表 1 医師数の年次推移

(単位：人)

		平成 4年	6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年
青森県	医師数	2,331	2,377	2,432	2,487	2,516	2,564	2,522	2,561	2,563	2,636
	人口 10万対	158.4	161.6	164.0	168.3	170.5	174.5	173.7	180.0	184.1	191.9
全国	医師数	219,704	230,519	240,908	248,611	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699	295,049
	人口 10万対	176.5	184.4	191.4	196.6	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5	230.4

(2) 歯科医師

平成 22 年 12 月 31 日現在の歯科医師数は 781 人であり、前回調査の平成 20 年に比べ、8 人減少している。

また、人口 10 万対では 56.9 であり、平成 20 年に比べ 0.2 ポイント増加している。これを全国値の 79.3 と比較すると、22.4 ポイント少ない。

表 2 歯科医師数の年次推移

(単位：人)

		平成 4年	6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年
青森県	歯科 医師数	634	681	708	730	717	758	757	777	789	781
	人口 10万対	43.1	46.3	47.7	49.4	48.6	51.6	52.1	54.6	56.7	56.9
全国	歯科 医師数	77,416	81,055	85,518	88,061	90,857	92,874	95,197	97,198	99,426	10,576
	人口 10万対	62.2	64.8	67.9	69.6	71.6	72.9	74.6	76.1	77.9	79.3

(3) 薬剤師

平成 22 年 12 月 31 日現在の薬剤師数は 2,012 人であり、前回調査の平成 20 年に比べ、130 人増加している。

また、人口 10 万対では 146.5 であり、平成 20 年に比べ 11.3 ポイント増加している。これを全国値の 215.9 と比較すると、69.4 ポイント少ない。

表 3 薬剤師数の年次推移

(単位：人)

		平成 4年	6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年
青森県	薬剤師数	1,237	1,347	1,422	1,519	1,556	1,684	1,724	1,796	1,882	2,012
	人口 10万対	84.0	91.6	95.9	102.8	105.4	114.6	118.7	126.2	135.2	146.5
全国	薬剤師数	162,021	176,871	194,300	205,953	217,477	229,744	241,369	252,533	267,751	276,517
	人口 10万対	130.2	141.5	154.4	162.8	171.3	180.3	189.0	197.6	209.7	215.9